

# 唐泊港の構造的変化が集落の文化・暮らしに与えた影響についての研究

九州大学 学生会員 ○鍛冶昌男

正会員 樋口明彦

正会員 榎本碧

## 1. 研究の背景と目的

福岡市西区にある唐泊港はおだやかな博多湾に面した港で自然の砂浜の地形を船着き場として利用されており、博多港から出た遣唐使船の風待ち港として栄えた港である。しかし、1955年から国の補助事業により段階的に港の整備が進められ、砂浜部が岸壁に変わり、集落を囲むようにして堤防が延伸されていった。唐泊港の整備は2004年に完了し、今日の現代的な画一化された港の姿に変貌を遂げた。

唐泊港が整備されることで漁業が成長していった。漁業の変化、及び文化・暮らしの変化は港の整備から少なくとも影響を受けていると考えられる。

本研究では、戦後から現在までの唐泊港の構造的変化の過程と、その変化が集落の文化・暮らしに与えた影響を明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究の方法

本研究の対象地は唐泊港及び、唐泊港の周辺集落である人口約800人の宮浦・唐泊地区を対象とする。また対象年代は国の補助事業により整備が進められたのが1955年であるため、1948年から2013年までとする。

本研究では、まず唐泊港がどのような過程で、戦後の砂浜の港から今の姿に変化を遂げていったのかについて唐泊漁港台帳を基に唐泊漁港の変遷図を作成した。次に対象地の文化・暮らしの変化を把握するために対象地に住む住民に基幹産業である漁業、行事の実態、及びそれらの戦後からこれまでの変化について、ヒアリング調査を行った。最後に港の変遷図とヒアリング調査から得られた文化・暮らしの変化の2つのデータを基に港の構造的変化が文化・暮らしの変化に影響を与えたのか否かについて分析を行った。

## 3. 調査結果

### 3.1 港の構造的変化の過程

唐泊港の整備は国の補助事業にて1955年から2004年にかけて、9段階の計画に基づいて表-1に示すように段階的に長期的に港の整備が進められてきた。

### 3.2 漁業、行事、祭事の変化

#### 3.2.1 漁業の変化

1948年から1990年代にかけて、唐泊港ではイワシ漁、カナギ漁、鯛吾智網漁を主に行っていた。鯛、金釘を干すスペースは砂浜だけではならず、各家庭の敷地や神社、寺の敷地内でも干していた。

1955年から唐泊漁港の整備が進み、岸壁、堤防、水産加工場などの漁業関連施設が建設され、1963年には1.21億だった水揚げ額が1977年には6.7億円と大幅に増加した。しかしながら、1980年代後半から燃料の高騰、魚の質の低下により次第に採算が取れなくなり、これまで主流だったカナギ漁、イワシ漁は廃止されることとなった。それと同時に牡蠣の養殖が行われるようになった。

#### 3.2.2 行事、祭事の変化

唐泊港の集落には、綱引き大会、相撲大会、常舞台、どんたく、やぶさめが行われる北崎くんちなどの行事があることが分かった。それらの行事・祭事のほとんどは集落内に空き地が無いため、近くの砂浜で行われてきたものが多かった。これらは港の整備過程で、途中で廃止されたもの、規模が縮小されたもの、実施場所が変更されたものなどそれぞれで変化が見られた。

表-1 唐泊漁港の整備過程

西暦	主な工種
1955～1962	防波堤、物揚場等
1963～1968	護岸、物揚場等
1969～1973	船着場、物揚場等
1974～1976	防波堤、護岸等
1977～1981	防波堤、防砂堤、岸壁等
1982～1987	防波堤、防砂堤、水産共用加工場等
1988～1994	防波堤、導流堤
1995～2001	沖防波堤、岸壁、集落排水施設等
2002～2004	突堤

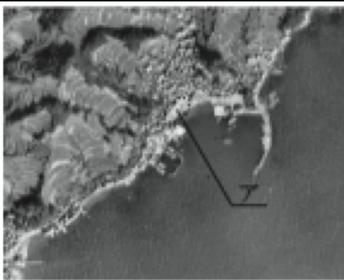
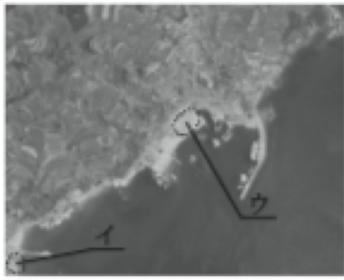
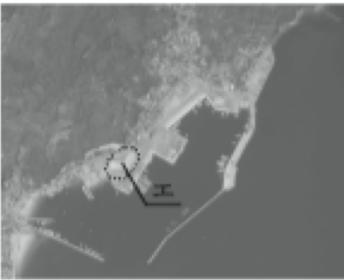
#### 4. 調査結果の分析

港の変化を航空写真にて比較し、港の変化と漁業、文化・暮らしの変化の関係をまとめたものが表-2である。表-2から、港の段階的な構造的変化が集落の文化・暮らしに影響を与えていた事が分かる。

#### 5. 結論

1955年から2004年までの段階的な唐泊港の整備は、その過程の中でやぶさめ、綱引き大会などの行事、漁業形態に影響を与えている。

表-2 唐泊漁港の構造的変化と文化、暮らしの変化

西暦	航空写真	港及び、文化・暮らしの変化
1948年		<p>港が整備が始まる以前は、ほとんどの船は砂浜に停泊させており、小船は石積みの生け簀の中に停泊をさせていた。台風などにより、湾内が荒れる可能性があるときには、小船は砂浜ではなく、砂浜付近の集落まで引き揚げており、大船は博多港まで持っていき、停泊をさせていた。</p> <p>集落の構造が狭い土地に家がひしめきあっており、空き地が無かったため、当時の行事のほとんどは砂浜で行っていた。</p>
1961年		<p>1948年航空写真中のアの砂浜に岸壁が建設され埋め立てられた。このアの砂浜の消失により、そこで行われていた唐泊綱引き大会の廃止、また集落内の家の前で行われていた盆踊りは埋め立てられたアの位置で行われることとなった。</p> <p>1948年から1961年の港の構造的変化は唐泊綱引き大会及び、盆踊りに影響を与えたと考えられる。</p>
1981年		<p>1961年航空写真中のイの砂浜の護岸整備が進められ、イの砂浜の面積が減少した。</p> <p>このイの砂浜面積の減少により、そこで行われていた宮浦綱引き大会、北崎おくんちのプログラムの1つであるやぶさめ行事は廃止となった。また、埋め立てにより、ウでは唐泊体育祭が行われるようになった。</p> <p>1961年から1981年の港の構造的変化は宮浦綱引き大会及び、やぶさめなどの行事に影響を与えたと考えられる。</p>
1988年		<p>1981年航空写真中のエに水産共用加工場が建設された。</p> <p>水産共用加工場の建設により、これまで集落内の空き地、埋め立て地のほとんどを使って、行っていたイワシ・カナギ干しは水産共用加工場でまとめて行われる事となり、家族全員で行っていた漁業の形態に変化が見られた。</p> <p>1981年から1988年までの港の構造的変化は漁業の形態に影響を与えたと考えられる。</p>
2005年		<p>1988年から新たに導流堤、突堤、集落排水施等が2004年に建設され、9段階による唐泊港の整備が完了した。</p> <p>漁業では燃料の高騰によるイワシ、カナギ漁の廃止、また行事では子供の数の減少による唐泊盆相撲の廃止の変化が見られた。</p>